

## 思いや考えをいきいきと表現できる援助の工夫

～絵本からイメージを広げる遊びを通して～

沖縄市立比屋根幼稚園

教諭 照屋 めぐみ

### I テーマ設定の理由

近年の都市化、核家族化、少子化などの社会状況の変化に伴い、友達や地域の人々とかかわって遊ぶ機会も少なくなっている。また、精巧なおもちゃやゲーム、テレビやインターネットなど、技術の進歩や情報化により、身の回りのものを工夫することや、人と直接かかわって遊ぶことが少なくなっている。しかし、人格形成の基礎を培う幼児期の教育において、幼児の生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人とかかわる力や思考力、感性や表現する力などをはぐくみ、人間として、社会とかかわる人として生きていくための基礎を養うことが大切である。

幼稚園教育要領の「感性と表現に関する領域『表現』の「内容の取り扱い(1)」では「豊かな感性は自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること」としており、表現と人間関係とのかかわりも述べている。

本園の幼児を見てみると、明るく活発で人懐っこい子が多く、教師や友達とかかわりながら楽しく活動している。しかし、園生活後半になっても遊びに入れない子や、友達との遊具の取り合いになるなどのトラブルが頻繁な子もいる。自分の思いを伝えるのが苦手な友達と仲良く過ごすことができない子の姿も見られる。

これまでの保育を振り返ってみると、幼児一人一人に寄り添い、安心して園生活が過ごせるような援助を心がけていた。しかし、幼児が自信を持って表現することや、友達と互いに伝え合い楽しく活動したりできるような援助につい

て、見直しと工夫の必要性を感じていた。

そこで、友達や教師と共に絵本や物語に親しむ中でイメージを共有し、友達とかかわりながら、自分の思いを自分なりに表現し、思いや考えを伝え合うことで、さらに互いに影響を及ぼし合い、遊びが充実できるのではないかと考える。

以上のことから、幼児が感じたり、考えたりしたことを自分なりに表現する遊びの中で、幼児が興味や関心を持って取り組める環境の構成や友達と認め合う援助の工夫をすることで、一人一人が思いや考えをいきいきと表現することができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

### II 目指す幼児像

- 自分なりの表現をし、友達と楽しく遊べる子。
- 思いや考えを伝えることができる子。

### III 研究目標

絵本からイメージを広げて表現する遊びを通して、友達とかかわり合いながら、幼児が思いや考えをいきいきと表現できる援助の工夫

### IV 研究仮説

#### 基本仮説

絵本からイメージを広げて表現する遊びを通して、幼児の思いに共感し、環境の構成や一人一人に応じた援助の工夫をすることによって、思いや考えをいきいきと表現し、友達と楽しく遊ぶことができるであろう。

## V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 理論研究

#### 具体仮説 1

領域「表現」の意義、絵本の教育的効果について理論研究をすることにより、教師の援助のあり方が明確になるであろう。

#### (1) 幼稚園教育要領「表現」の捉え

幼稚園教育は、幼稚園教育要領の第1章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて幼児が幼稚園生活を展開し、その中で心身の発達の基礎となる体験を得ることによって行われるものである。

幼児期は生活の中で自発的、主体的に環境とかかわりながら、直接的・具体的な体験を通して生きる力の基礎となる力を身につけていく時期である。したがって幼稚園教育においては、このような幼児期の特性を考慮しながら、心情、意欲、態度などがそれぞれの幼児に培われるようにすることを具体的な目標としてとらえる必要がある。

そこで感性と表現に関する領域「表現」について改訂された要点を把握し、領域「表現」の意義づけを理解することにした。

#### ① 幼稚園教育要領「表現」について

平田智久氏は「別冊発達29」の中で以下の3つについて述べている。

#### ア 「表現」について、再確認すること

(ア) 「表現」という言葉の解釈について再確認する。

「表現」という言葉を「表」と「現」に分けて考えてみると、意思のある「表」と内面の変化「現」との組み合わせである。日常の中の伝えたいという意思表示は「表」であり、また、「現」はその日その時の体調や心持が微妙に変化している内面の変化が現れているものである。この「表」と「現」とをそれぞれ大切に受け止め感じるには、「表」は子どもの発達や育ちの特性を理解することと、大人概念で決めつけてはいけないことが大切である。「現」は感じ取るこ

とが基本で、音や声、描線の強弱、指先から身体すべての動きまでの微妙な変化に反応することである。そうした関係を教師と子どもの中に持つことから「表現」が成り立つのである。その「表現」の関係は子どもと親や身近なおとなの間にも子ども同士にも存在し、つまりコミュニケーションの手段としての「表現」でもある。

(イ) 「ねらい(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。」ことの豊かな感性について再確認する。

「感性」とは様々な感覚器官で身近なことを感じ、その感じたことをもとに考えたり思ったりすることであり、その考えや思いを具体的な行動に移すことである。つまり、「感じる」という入り口から、考えたり思うことを経て「行動する」という出口までの一連の行為を「感性」という。好奇心＝興味関心は「考える」時の原動力にもなるが、感覚器官に直接働きかけていく。「これは何だ」と様々なものを発見し、触ったり拾ったり、形や色の面白さや硬さやもろさも感じ取っていく。その好奇心＝興味関心の広さこそが子どもの育ちに大切なのである。

また、子どもの「表現」を受け止める際には、子ども一人ひとり思いも感動も工夫したことも違うことを受け止めていかななくてはならない。その違いを受け止めてくれる環境のなかで子ども達が育つことで、自分自身に誇りを感じたり、自信を持って行動できるようにしたりして育つのである。また、友達によさ(自分と違うところ)を感じ取れる、つまり、認め会える環境となっていくのである。

(ウ) 「ねらい(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」ことの自分なりに表現するについて再確認する。

表現とは「感じて」「考えて」「行動する」ことであり、身近な情報や刺激を感覚器官で受け止め態度に表れることである。感じ方は、人によって違い、同じ人でもその日の体調や気分によって変わるものである。「感じ方」が変われ

ば「考え方」も「行動」も変わるものである。一人ひとりによって違うことが「表現」なので、自分なりに表現することが基本となる。それは、年齢や性別、興味関心、経験の有無、体調や心持ちによっても変わるものである。そうした心の動きに呼応した「表現」活動こそ人間らしさを求め育てる保育・教育に必須なことだと考える。

(エ) 「ねらい(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。」ことの生活の中でについて再確認する。

日常の生活の中で子どもたちは、好奇心＝興味関心を十分に発揮しているの、その姿を見逃さない保育をしなくてはならない。「感じて」「考えて」「行動」しているので、心の動きも生活の中から生まれてくる。好奇心＝興味関心こそ一人ひとり違っており、もし同じ関心があれば、仲間作りのきっかけになる。違ってることが素敵なこと、同じという嬉しさの両方が大事なのである。

#### イ 領域「表現」で加わったこと

(ア) 「内容(1)生活の中で様々な音、色、形、手触り動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」について。

感じることは、表現活動には欠かせないものである。興味関心がある事象や出来事には気付いたり、また興味関心がなくても友達がやっている行動に直面してやってみたくなくなったりすることは往々にしてある。自分で「行動」した結果を自分でまた「感じて」新たな考えをひろげ「行動」するという繰り返しがイメージをひろげたり、考えを深めたりしていく。

内容(3)・(4)にもあるように、幼児の思いを音や声、身体の動き、色や形などに託して日常的な行為として自由に表現できるようにする。さらに感動体験を日常の生活の中で、教師や友達と共有し、伝え合うことを十分に行えるようにすることが大切であることから、図1のような、感じて、考えて、行動する循環を捉えていく必要がある。

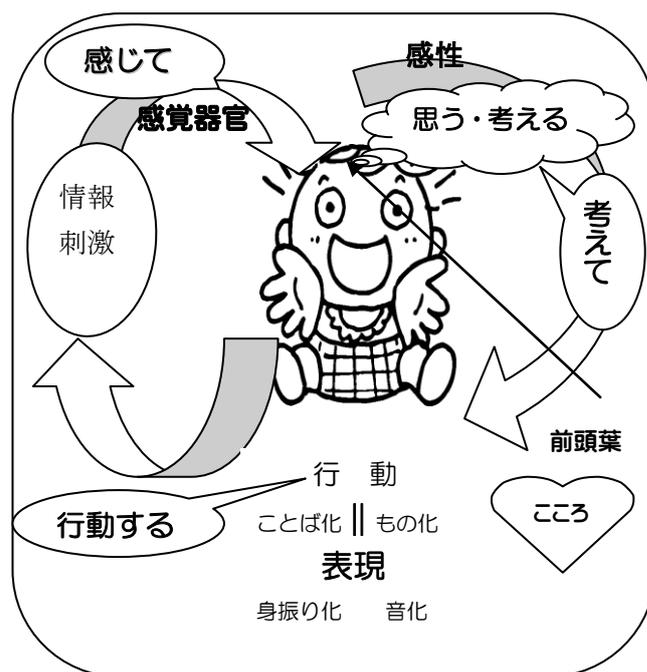


図1 内的循環論・平田説(筆者にて簡略)

(イ) 「内容の取扱い(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。」について。

他の幼児の表現に触れられるようということは、相手がいることで表現できるのであり、「ねえ見て」「あっ、それおもしろいね」と言えるには相手がいる環境が必要である。教師と子ども、子どもと子ども、親と子どもであったり、そうして発信したり、受け取ったりする環境作りが保育には必要である。友達と一緒に活動し、時にはぶつかり合うこともおこり合いをつけることも学ぶ。「かっこいい、やってみたいな」「わたしはできるよ」などとお互いのよさを認め会える集団として育つことが、一人ひとりの考えや行動力を高めていく。個を育てることと集団を高めることを交互に考えることで保育を充実させることになる。

また、表現する過程を大切にしてということ

は、幼児一人ひとりの表現したい欲求や自己表現を楽しめる環境づくりの工夫をすることが大切である。また、考えや思いを受け止めてくれる保育者や友達との関係が保てるようにすることが求められている。「自分なりに表現して楽しむ」という心の動きそのものを大切に受け止め、認め会える保育の実現こそ重要である。

#### ウ 他の領域と相互に関わること

##### (ア) 「健康」との関わり

健康の内容(5)「先生や友達と食べることを楽しむ」は食べるという行為そのものは一人ひとりの心もちが表現されている。お互いに感じあいながら楽しむことと相互性がある。

##### (イ) 「人間関係」との関わり

人間関係のねらい「(2)身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ」は表現＝コミュニケーションという手段が必要になってくる。その他にねらい、内容、内容の取扱いの中でも、幼児の主体的な活動は表現の行動によって可能になるものばかりであり、人間関係と表現は表裏一体である。

##### (ウ) 「環境」との関わり

「好奇心、興味関心を持つ」「自分なりに感じ、考えること」「直接体験すること」が重要であり、日常生活の中で気付いたり考えたりすることが重要なこととしていることは「表現」と同じ部分である。

##### (エ) 「言葉」との関わり

「内容の取り扱い(2)幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること」については、言葉による伝えあいの大切さと同時に、言葉にならない思いなどをともに感じあうことや認め合うことの大切さを失ってはならない。

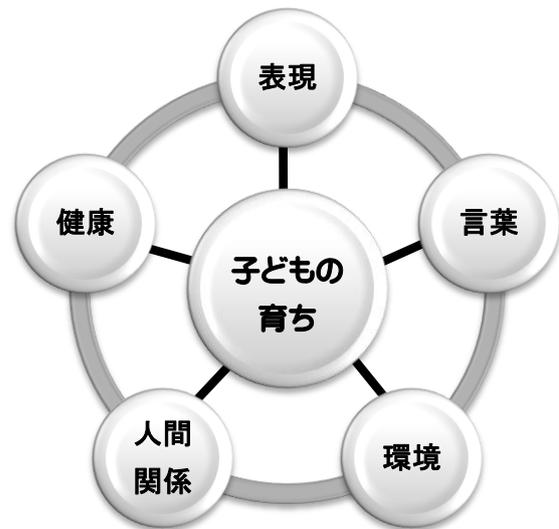


図2 子どもの育ちと五領域の相互関係

※領域「表現」は子どもの育ちの中で、五領域が相互的に関わって成り立っていると重要なポイントである。

## (2) 絵本の教育的効果について

### ① 絵本の特性

童話作家の古田足日氏は「私たちは、すぐれた絵本と向かいあうとき、その絵が私達に何かを語りかけてくれるのを感じます。ひとは言葉だけで語るものではありません。写真でも語り、絵でも語ります。ひとつひとつが何かを語っている絵、それをくみあわせて、全体としてまた何かを語っているのが絵本です。」と述べている。

幼児は絵本を読んでもらうことで、耳から言葉を聞き取り、目で絵本の絵を読むことからイメージ化できる力と人間的な優しさを育てていくことができる。また、乳・幼児期に親や先生から絵本を読み聞かせてもらうことによって話を聞く態度も身につくようになる。

### ② 幼稚園教育における「絵本との出会い」

#### ア 絵本の教育的効果について

絵本を通して感性と語彙(量と質)・考える力・コミュニケーション能力が豊かになる有効な手立て、心情、能力、態度が育つことができる。

- 人の話を静かに聞く態度が育つ。
- 創造の世界を楽しみ、自分でも考えたり、想像したりする力がつく。
- 喜び、優しさ、思いやり、悲しみ、怒り、正義感などの気持ち、共感する心情が育つ。
- 文字や言葉を習得する。
- 様々な人間の生き方や人間としてあるべき姿を理解できる。
- 好奇心を引き出し、多様な知識を獲得し、知る喜びを体験する。
- 本を読む意欲を育て、読書習慣の基礎を養うことができる。

#### イ 言語発達の要素について

絵本の中には美しい絵とともに、美しい言葉やリズムカルな文章が耳から入りこみ、無意識的に多くの言葉を修得することができる。特に幼児期においては、少しむずかしい言葉でも覚え、吸収していく。この時期の読み聞かせは子ども達の言葉を豊かに育むことができる。

- 絵本とのふれあいの時期（1～2歳）
  - ・語りかけの絵本や言葉遊びの絵本から、「見える、聞こえる、イメージする」ことなどを楽しむ。
- 自ら絵本の世界に入って楽しむ時期（3～4歳）
  - ・たくさんの絵本の中から好きな絵本を見つけることができる
  - ・言葉の数が増えてくる。
- 自ら絵本の世界に入ってつぶやき、対話、会話で表現できる時期（4～5歳）
  - ・知的好奇心をくすぐる絵本から、ごっこ遊びや空想の世界を楽しみイメージを膨らませる。
- 自ら絵本の世界に入って絵本から「話し言葉から書き言葉」へ移行する時期（5～6歳）
  - ・生活童話などから、友達へ興味関心を広げ、いたわりの気持ちや優しさなど思いやりの心を育てる。

#### ウ 保育と絵本の読み聞かせ

絵本の内容に共感し、感じたことや考えたことを遊びに取り入れることで、遊びこむ力を引き出したり、再現したりして遊ぶ楽しさを味わ

うことができる。

- 自分を見い出す喜びを感じることができる。
- 成長することの憧れをもつことができる。
- 家族愛・動物愛・友情・思いやりの絵本から心、命、自然などを大切に思うことができる。
- 観察・製作・春夏秋冬の自然・成長の糧・月・太陽・星・宇宙等の自然や科学の知識が伝わるることができる。
- しりとり絵本・なぞなぞ絵本などから言葉遊びを楽しむことができる。
- 楽しくて元気の出る本、ゆかいで笑いたくなる本、心あたたまり、しみじみする本、不思議な世界、ドキドキする冒険の本などから様々な感情体験を味わうことができる。

以上のように、絵本は幼児の創造性や想像力、考える力、人とのコミュニケーション、言語の獲得としての役割も大きいと考える。

## 2 指導計画

### 具体仮説2

幼児の実態を調査、分析をし、年間指導計画を作成することにより、見通しを持って保育実践できるであろう。

#### (1) 幼児の実態把握

##### ① 実態調査アンケート

##### ア 調査目的

幼児の家庭での様子や遊びの様子の実態を把握し、本研究の資料として役立てる。

##### イ 調査方法

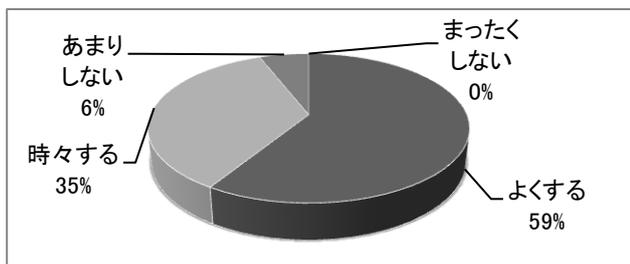
(ア) 調査対象: 比屋根幼稚園 1組 24名の保護者

(イ) 調査日: 平成21年5月15日

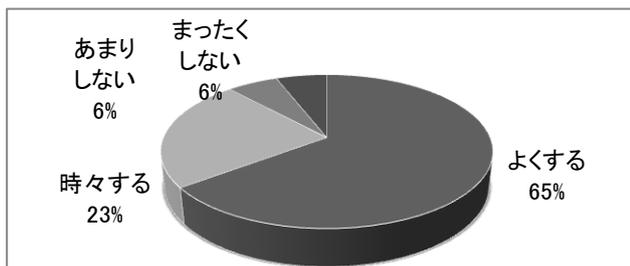
(ウ) 回収率: 71%

##### ウ 結果と考察

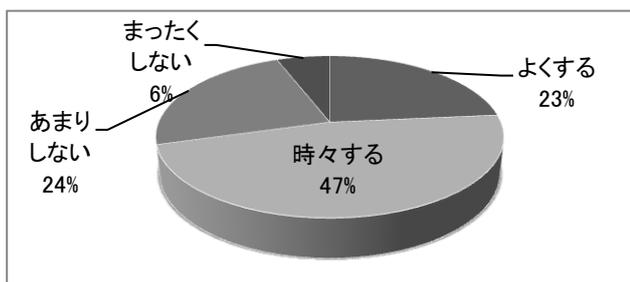
**質問 1** お子さんは、幼稚園での出来事を話しますか。



**質問 2** お子さんは、幼稚園での友達の名前が話によくできますか。



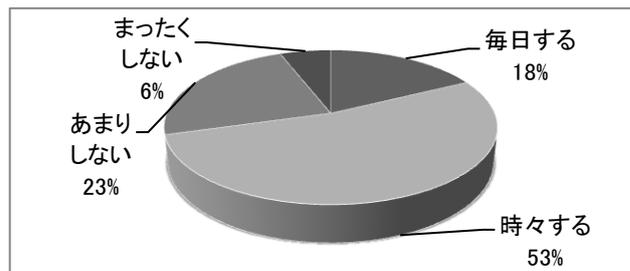
**質問 3** お子さんは幼稚園で習ったリズム遊びや歌を口ずさんだりしますか。



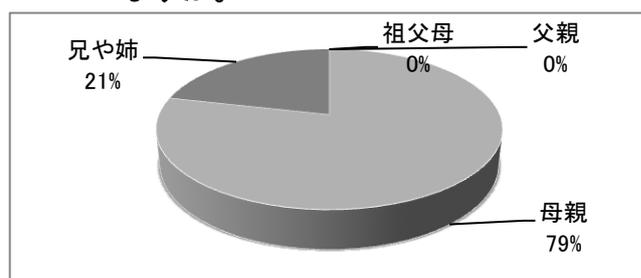
〈質問 1, 2, 3の考察〉

全体の 94% の子ども達が幼稚園での出来事を話していると答えている。あまり話さないと答えた幼児は、幼稚園でも言葉数も少なくあまり友達関係も見られなかった。学級での幼児の友達関係を再確認しながら、友達と一緒にいる活動や当番活動などを見直し、学級での朝の会や帰りの会などの話し合いの場の工夫をしていく必要がある。また、園での様子を家庭にも伝えながら、自分の思っていることや教師からの伝言などを聞いたり、話したりする機会を作るようにしていきたい。

**質問 4** ご家庭で絵本や物語などの読み聞かせをしていますか。



**質問 5** 質問 4 で 1, 2 と回答された方にお尋ねします。主に誰が読み聞かせをしていますか。



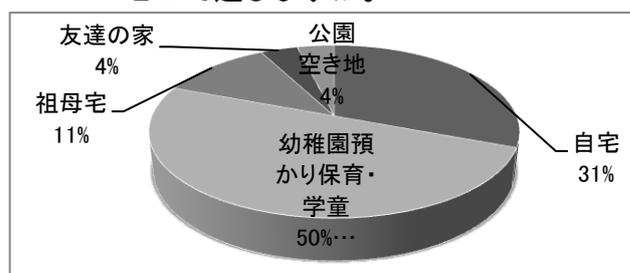
〈質問 4, 5の考察〉

毎日、あるいは時々読み聞かせをしている保護者が全体の 7 割、残り 3 割の家庭では絵本の読み聞かせがあまりされていない。

ほとんどの家庭で、母親による読み聞かせが行なわれており、父親の絵本の読み聞かせの参加がなかった。

6 月から幼稚園でも、週一回の絵本の貸し出しが実施されたので、学級通信や園だよりなどを通して、家庭での絵本の読み聞かせの取り組み方や幼児期の絵本との出会いについて知らせていく必要がある。また、幼稚園における絵本と幼児とのかかわらせ方や読み聞かせの重要性を感じる。

**質問 6** お子さんは幼稚園から帰った後、主はどこで遊びますか。



〈質問 6の考察〉

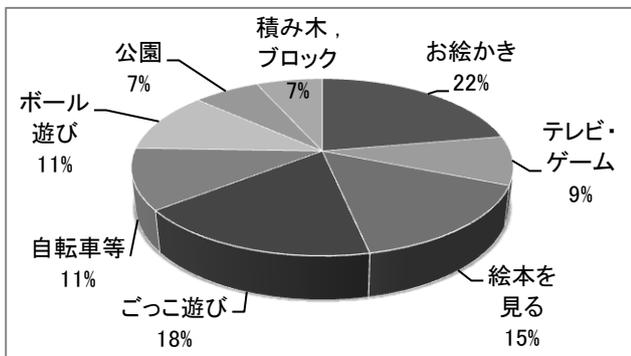
降園後は、共働きの多いためか、幼稚園の預

かり保育や学童保育で過ごしていることが多い。また、祖父母宅で過ごす子もいる。

この結果と園での友達とのかかわり方を合わせてみると、自宅で遊んでいると回答のあった幼児が、友達とかかわって遊ぶことができず一人で遊ぶことを好む幼児(日常行動観察より)と同じであった。

このことから、意図的に他の幼児とかかわらせる援助の工夫の必要性を改めて感じた。

**質問7 お子さんはどのような遊びをしていますか。(複数回答)**



**質問8 休日は、お子さんとどのような遊びをしていますか。**

- ・公園で、自転車の練習や遊具で遊ぶ。
- ・近所で遊ぶことが多い、公園や海で貝殻拾いをする。
- ・キャッチボールやサッカーをする。
- ・時間があるときはトランプや人生ゲーム等を楽しむ。
- ・ドライブを楽しみ、友達家族と一緒に食事をして過ごす。
- ・先生の話
- ・一緒に絵本を読むことや、きょうだいでままごとやぬりえをして過ごしている。

**〈質問7, 8の考察〉**

普段の遊びの様子は、室内での遊びが多い。休日は家族で戸外に出かけて過ごす姿が見られ、家族とのスキンシップやコミュニケーションを心がけている様子が見受けられる。

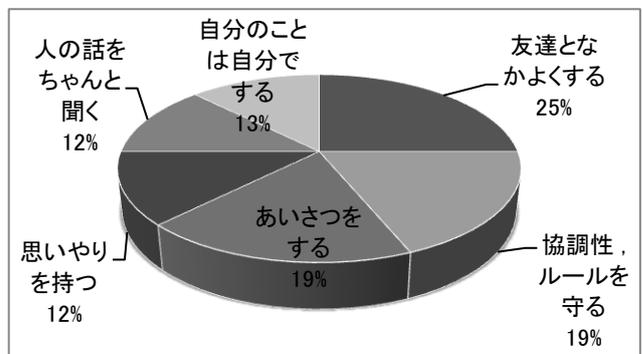
**質問9 お子さんが話してくれた幼稚園の出来事や、おもしろいエピソード等があれば教えてください。**

- ・コウモリさがり成功したよ！
- ・あさがおの芽がでた！うれしかった！
- ・お芋をおばあちゃん先生と植えたこと。
- ・良いことをするとピンクのハートになるよ。
- ・砂場で大きな山を作ったよ。
- ・風邪で休んだ後、登園したら、友達が心配してくれてうれしかったこと。
- ・〇〇さんがおこりんぼだったけど、きょうはやさしくなっていたよ。

**〈質問9の考察〉**

子ども達が幼稚園での出来事や、楽しかったことや困ったことなどを家族の人に伝えている様子が見られる。一方、あまり話さないと答えた子ども達の姿も見られることから、幼稚園での様子や友達との関係を学級通信で知らせながら家庭との連携を図っていく必要がある。

**質問10 お子さんには、幼稚園でどのようなことを身につけてほしいと思いますか。(自由表記及び複数回答)**



**〈質問10の考察〉**

集団生活の場における規範意識や挨拶、思いやりの心が育ってほしい保護者の思いを受けとめて、家庭との連携を図りながら、幼稚園での基本的な生活習慣が確立していけるようにする必要があります。

**【全体の考察】**

アンケートの結果から、子ども達は平日の幼稚園降園後の居場所としては幼稚園の預かり保育や学童保育に行く子も多く、家庭でのコミュ

ニケーションが気になる場所である。しかし幼児は、幼稚園の様子や友達との関係などを家族に伝えることができる環境にあり、また、家族は休日に仲良く過ごすことを心がけていることが分かった。親の願いなどから、基本的な生活習慣の確立や友達との関係などの内面の育ちを望む思いが伝わってくる。

このことから、幼稚園での生活においても幼児が安心して自己を表現できるような遊びの場の工夫や教師との信頼感や、友達との関係などが充実できるようにする。

## ② ソシオメトリック・テスト

ソシオメトリック・テストとは、子どもにクラスメートの写真や名前を書かれたリストを見せて、各クラスメートとどのくらい一緒に遊びたいかを評定する「仲間評定法」と好きなクラスメートや嫌いなクラスメートを「選択」「排斥」する「仲間指名法」がある。

子どもの仲間内地位を検討したり、クラスの中でのグループなどを知ることができ、友達関係を広げたり、新たな友達づくりをすることもできるテストである。

本研究では、活動を進めていく上でクラス内での友達関係を把握するため、クラスの中で好きな友達をあげてもらって「選択」だけを行った。幼児期は好きな友達との関係を基盤にしてかかわりが広がっていくことを考慮し、あえて「排斥」は行わないことにし、今回は、友達の数を限定せずに選んでもらった。表1はその結果である。

選ぶ側からみて、友達の名前を一人も選ぶことができなかった男の子が3人おり、6～7人の友達を選ぶことができる子がいる一方で、2人しか選べなかった子が6人いた。

また、選ばれる側から見ると、誰にも選ばれなかった男の子が5人おり、1人からしか選ばれなかった子が1人いる。このことから、友達関係に偏りが見られ、一人で遊ぶことで満足していたり、特定の子と遊んでいたりする姿が多いように見受けられた。また、進んで友達

や遊びにかかわろうとしない子は他の子から選択されることが少ないことが分かった。この幼児の実態を捉え、絵本からイメージを広げる遊びを取り入れることで、友達とかかわりが持てるような援助の工夫をしていく必要がある。

表1 (5月26日テスト実施 ◎相互関係○選択関係)

(選ばれる側)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
1	◎							◎◎	○			○													5	
2	◎	◎							○																	2
3			◎																							0
4				◎																						0
5	○				◎					○							○									3
6						◎				○	○						○									3
7							◎																			0
8	◎							◎			◎															3
9	◎							◎																		2
10								○		○	○															3
11								○			◎															2
12								◎		◎																2
①																	○	○	○							3
②													○		○	○	◎	○	○	○	○					7
③																◎	○	○	○	○	○	◎				6
④																◎			○				◎			3
⑤																	◎				○	◎				3
⑥																◎	◎	○	◎			○				5
⑦																◎	○									2
⑧																		◎	○							2
⑨																			○	○				◎		3
⑩													○	○					○	○	○		◎			6
⑪														○			◎	○			◎					4
⑫																◎	◎				◎					3
◎	3	1	0	0	0	0	0	3	2	0	1	2	0	1	3	2	2	3	0	1	1	1	1	2	3	31
○	1	0	0	0	0	0	0	2	1	2	3	2	3	1	1	2	0	5	7	4	3	2	2	0	41	

## (2) 年間指導計画の作成

幼児の発達の過程を理解して、幼児の実態を把握し、幼稚園での一年間の生活をI期からIV期に分けて捉えなおし、子どもの育ちに見通しが持てるように、ねらい、指導内容の視点、環境構成、教師の援助と配慮、絵本・歌やリズム、絵画制作などを取り入れた具体的な年間指導計画を作成した。

(次ページ)

(2) 友達とかかわる力を育むための年間指導計画

		I 期（4月～5月）	II 期（6月～7月）
発達の過程		○教師との触れ合いや友達と遊ぶ中で、園生活に親しみ安定していく時期	○園生活の中で安定し、気の合う友達とかかわりながら遊びを広げていく時期
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・喜んで登園し、教師や友達と好きな遊びを見つけて遊ぶ。</li> <li>・幼稚園生活に親しみを持ち、必要な決まりがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊びや生活を進める中で、共通のイメージを持って遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>・身近な環境に進んでかかわり、見たり、聞いたり、試したりして経験を広げる。</li> </ul>
指導内容の視点	かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達と一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わう。</li> <li>・お話の内容に興味を持って聞き、先生や友達と心を通わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動の中で、見たことや考えたことをいろいろな材料を使って工夫し表現する。</li> <li>・絵本や紙芝居などに親しみ、興味を持って想像する楽しさを味わう。</li> </ul>
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場・積み木・ブロック・ドミノ・固定遊具</li> <li>・ままごと・粘土遊び・パズル・新聞紙・チラシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場遊び・色水遊び（ジュース屋さんごっこ）</li> <li>・シャボン玉・製作遊び（廃材利用）・虫探し</li> <li>・フラフープ・リズム遊び・大型積み木・ソフト積み木</li> </ul>
みんなでかかわる活動	絵本・紙芝居	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐるんぱのようちえん・ぐりとぐら・なきむし</li> <li>・ようちえん・はじめまして・ともだちほしなお</li> <li>・おかみくん・はらぺこあおむし・おべんとうなあに・こいのぼりさん・もこもこもこ・せんたくかあちゃん・かお・ともだちいっぱい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はぶらしハーマン・くすのきだんちシリーズ・食育絵本・おりょうりとうさん・うみキリン・そらいろのたね・ポポくんのミックスジュース・100かいだてのいえ・かしのきホテル・いいないいなこのおうち・すてきなおうち・かばまだら・かわいそうなぞう・たなばた</li> </ul>
	製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>♪園歌♪手遊び♪先生とお友達♪ちゅうりっぷ♪ちようちょ♪こいのぼり♪お弁当のうた♪みどりの風と青い空♪ひとりのゾウさん</li> <li>*アブラハムの子*こっこちゃんびよびよちゃん</li> <li>・折り紙遊び・母の日の似顔絵・当番表づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♪園歌・手遊び（ハンカチウサギ・あさがおこりゃこりゃ）</li> <li>♪栄養のうた♪あめふりくまのこ♪ねずみの歯磨き</li> <li>♪すてきなパパ♪にじのむこうへ♪かばまだら♪七夕</li> <li>*カエルのコーラス隊*えびかにつくす*ディズニー体操</li> <li>・父の日の似顔絵・七夕製作・なかよしハウス</li> </ul>
	園全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式・誕生会（毎月）・春の遠足</li> <li>・親子交通安全教室・朝顔植え・全体リズム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親による絵本の読み聞かせ・歯の表彰式・プール活動</li> <li>・全体リズム（フォークダンス・かけっこ）・園外保育</li> <li>・夏野菜を育てよう（ヒラヤーチー会）・ミニコンサート</li> </ul>
☆援助と配慮 ○環境構成		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教師は、一人一人をあたたく受け止め触れ合う中で安心感を持たせ、園生活の楽しさや生活の仕方を伝えていくようにする。</li> <li>☆朝の会や帰りの会の中で、今日の日程や明日の予定を伝える場を作り、見通しを持って生活できるようにする。</li> <li>☆教師も一緒に遊びに加わりながら、遊び方やルールを知らせていき、明日も遊びたい気持ちが持てるようにしていく。</li> <li>○安定した気持ちで生活ができるような時間や場の設定し、友達関係が築けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆友達と一緒に遊びを楽しめるように、材料や用具、環境を幼児と一緒に整えていく。</li> <li>☆自分なりのイメージを持っていろいろな遊びに取り組み、頑張っている姿を認め励まし自信につなげるようにする。</li> <li>☆子ども同士の気持ちの行き違い、葛藤に十分につき合いながら、状況に応じて援助していく。</li> <li>○工夫したり、試したりすることが十分にできるように教材の種類、内容など、活動の様子を見ながら環境を構成する。</li> </ul>

		Ⅲ期（8月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
発達の過程		○友達関係を深めながら、イメージを伝え合い、力を合わせてやり遂げる楽しさがわかる時期	○友達同士で目的をもって園生活を展開し、自信を持って行動していく時期
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に共通の目的に向かって協力し合いながら、遊びを進め充実感を味わう。</li> <li>・自分達で考えたことを遊びの中で実現したり表現したりする楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら、自分達で園生活を進めていく楽しさを味わう。</li> <li>・いろいろな活動に楽しんで取り組みながら、自分の思いや感じたこと豊かに表現し合い、互いの成長を喜び充実感を味わう。</li> </ul>
指導内容の視点	かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたこと、考えたことを自分なりに言葉や身体で表現して楽しむ。</li> <li>・友達と一緒にやり遂げようとする気持ちを持つ。</li> <li>・いろいろな遊びに友達と考え工夫しながら、みんなで協力して楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達で園生活を進めていき、相手に考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら遊びを進める。</li> <li>・共通の課題に向かってイメージを身体や言葉などで表現する楽しさを味わう。</li> </ul>
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会ごっこ（リレー・玉入れ・リズム等）・縄跳び・ごっこ遊び・ボール遊び・劇遊び・キャンプごっこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹馬・縄跳び・スイングスキップ・サッカー・郵便ごっこ・正月遊び・ドッジボール・ホッピング</li> </ul>
みんながかかわる活動	絵本・紙芝居	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイミー・トンボの運動会・とべバッタ・だんまりコオロギ・お月さまとウサギ・おおきなおいも・ねずみのいもほり・クリスマスシリーズ・てぶくろ・エルマーの冒険・おむすびころりん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12支の話・お正月・もりのゆうびんやさん・びゅんびゅんごまがまわったら・ないたあかおに・とっちくんのカレーようび・おなかの中に鬼がいる・鬼ムーチー・ぼくは一年生だぞ・</li> </ul>
	♪歌・リズム・絵画、製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>♪運動会の歌♪かたたたき♪トンボのメガネ♪まつぼっくり♪花咲き山♪ムーチーの歌♪クリスマスソング♪ともだちになるために♪手遊び（八百屋のお店、やきいもグーチーパー、ハブデービル）</li> <li>*運動会リズム*エイサー*乗り物体操*タタロチカ*ジングルベル</li> <li>・運動会の製作・生活発表会製作・クリスマス製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♪十二支の歌♪すうじのうた♪あいうえおのうた♪やぎさんゆうびん♪カレーライス♪の歌♪豆まき♪てのひらを太陽に♪まあるいいのち♪うれしいひな祭り♪ドキドキドン一年生♪ともだちさんか</li> <li>*ドンドン体操*おおなみこなみ*シューフライ*これまで習ったリズム</li> <li>・凧作り・ひな人形製作・</li> </ul>
	園全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会・・花、じゃがいもの栽培</li> <li>・秋の遠足・お祭りごっこ・避難訓練</li> <li>・生活発表会・お楽しみ会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会・豆まき・ひな祭り会・カレーパーティー</li> <li>・親子体験給食試食会・修了製作・修了式</li> </ul>
☆援助と配慮 ○環境構成		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆一人一人のよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をしていく。</li> <li>☆個々から出てきたイメージを実現できるように援助し、自分達で取り組む充実感が味わえるようにする。</li> <li>☆友達やクラス全体で、創作や表現を楽しめるような活動を取り上げ、共同に活動することの楽しさや充実感を味わえるようにする。</li> <li>○遊びの中で様々な活動の体験ができるような環境の構成や援助に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆友達と一緒に過ごす楽しさやクラス全体がつながっている心地よさを子ども達と共に味わう。</li> <li>☆一人一人の取り組みを認めて褒めていく中で、必要な援助をしながら意欲を持たせていく。</li> <li>☆思い出に残る遊びを楽しめるように、たっぷり遊ぶことができる時間の確保をする。</li> <li>○自分達で遊びに必要な場を作り、目的に向かって考えたり工夫したりしながら充実感が持てるようにする。</li> </ul>

### 3 保育実践

#### 具体仮説3

絵本を通して、友達とかかわり合いながら遊びに取り組むことにより、楽しさや、面白さを味わい、思いや考えをいきいきと表現することができるであろう。

#### (1) 幼児の実態に応じた援助の工夫

##### ① 友達とのかかわりが持てる環境構成

5月後半、学級には朝の会や帰りの会などの話を聞く場において、教室から飛び出し、絵本の部屋やホールで走りまわる姿や、おしゃべりやいたずらをする姿が見られた。話を聞く態度や幼稚園での基本的な生活習慣において気になる点が見られる。また、ソシオメトリック・テストの結果からも、友達の名前をあげられなかった男の子が3人おり友達関係にも偏りが見られ、友達同士のかかわりが薄いことがわかった。そこで、新たなグループ編成をあえて行わず、現在、活動をともしている生活グループで友達とのかかわりが持てるようにする。

##### ② グループの友達とのかかわりを広げる援助

- 生活グループで活動の準備や片付けを協力してできるように、話し合いの中で気付かせたり考えさせたりしながら活動に見通しがもてるようにする。
- 頑張っている姿や工夫している姿を褒め、認めていきながら全体へと知らせていき、互いへの刺激となるようにしていく。
- 子ども達の言葉やつぶやき、気付きに共感し、耳を傾け、遊びにつなげていけるようにする。
- グループでの活動に参加できない子への配慮として、子ども達の様子を伝えたり、遊びの様子を知らせたりしながら、仲間に入れるようにしていく。
- 子ども達一人一人の保育記録をとり、実態を把握しながら、援助の手立てにしていく。

##### ③ 基本的な生活習慣の見直し

- 基本的な生活習慣は、子ども達が幼稚園での生活をしていくために必要な行動である。活

動の仕方を身につけていくことにより、園生活の流れをスムーズに進めることができ、楽しく遊べるようになるを考える。

そこで以下のことを身につけていくことが幼児の遊びを支える土台となり、友達と一緒に過ごす生活の中で、自分のことは自分でできる気持ちを味わい自信や喜びにつなげていけるようにする。

#### 生活行動

- あいさつをする。 ○手洗い、うがいができる。
- 身の回りの始末をする。○降園時の身支度をする
- 遊んだ後の片付けをする。○当番活動をする。
- お弁当などの準備、食後の後始末をする。など

##### ④ 話を聞くときの約束の再確認

子ども達に分かりやすいように図で表わし、7つの約束を確認していく。この7つの約束を定着できるように、園生活の中で、教師が意図的に子ども達の活動の中で気付かせることや話し合いの場に取り入れていくことで、話を聞く態度が身につくようにしていく。

#### おはなしききしょうす

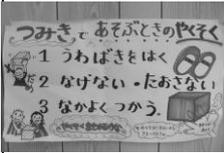
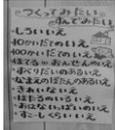
- ① はなをきこむ
- ② はなをきこむ
- ③ はなをきこむ
- ④ はなをきこむ
- ⑤ はなをきこむ
- ⑥ はなをきこむ
- ⑦ はなをきこむ

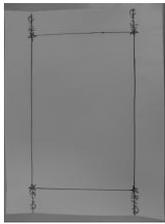
##### ⑤ 興味や関心に基づいて展開できる生活

興味や関心に基づく直接体験を通して満足や充実感を味わうことができるような環境を整えていく。

- ・実際に大型積み木やソフト積み木や段ボール



3	6月4日 (木)	友達と一緒に遊びを進める中で楽しさを味わう。	◆友達と一緒にゲームを楽しもう！ ☆絵本「ともだちいっぱい」 ♪ネズミのはみがき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団遊びを通して、仲間意識が芽生えるようにしていく。</li> <li>・楽しい雰囲気でご過ごせるようにしながらゲームを進めていく。</li> </ul>
4	6月8日 (月)	友達と関わりながら遊びを楽しむ。 	◆グループの友達と一緒になかよしハウスを作ろう。 ☆絵本「くすのきだんちは10かいだて」 ♪とけいのうた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型積み木を使用するので、再度、積み木の使い方の確認、安全面にも配慮していく。子ども達と積み木の約束について話し合い、楽しく友達と過ごせるようにする。</li> </ul>
5	6月12日 (金) 	友達の話聞き、気づいたことや考えたことを伝え合う。	◆グループの友達と一緒になかよしハウスについて話し合う。 ☆絵本「くすのきだんちにおひっこし」 ♪とけいのうた 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日のなかよしハウスづくりについて、グループの子ども達と話し合いの場を設け、活動の見通しがもてるようにする。</li> <li>・子ども達同士の思いや考えを受け止めながら、思いに寄り添い共感できるようにしていく。</li> </ul>
6 7 8	6月17日 (水) 6月18日 (木) 6月19日 (金)  	友達と考えを出し合いながら遊びを進める。	◆「なかよしハウスをつくらう！」 ☆絵本「100かいだてのいえ」 ☆絵本「うみきりん」 ☆絵本「おりょうりとうさん」 ♥感想を発表しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の思いや考えを友達との話し合いの場で伝えられるよう配慮しながら、友達と遊びのイメージを共有できるようにし、必要に応じて仲介していく。</li> <li>・段ボールや空き箱、画用紙、新聞紙などの材料を準備することにより、活動が充実できるようにしていく。</li> </ul>
9 10	6月22日 (月) 6月25日 (木)  	友達と一緒にイメージを共有しながら遊びを進める。	◆「なかよしハウスをつくらう！」 ☆絵本「かしのきホテル」 ♪げんきにしごと ♥感想を発表しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の言葉や、ひらめきに耳を傾け、その思いが遊びの中に活かしていけるように手助けをしながら、自分達で遊びを進めて楽しめるようにしていく。</li> <li>・感じたことや考えたことを友達に伝える場を設けていく。</li> <li>・今日の活動を振り返ることで自分の考えや友達の思いに気付けるようにし、明日への活動につなげていけるようにする。</li> </ul>

11	6月29日 (月)	友達と一緒にイメージを共有しながら遊びを進める。	◆壁面「なかよしハウスをつくろう！」 ☆絵本「いいないいなこのうち」 ♥感想を発表しよう！	・絵本を通して、自分の作りたい家や物などがイメージできるようにしていく。 ・また、友達の意見を聞きながら、刺激となるようにしていきたい。
12	6月30日 (火) 公開検証 保育	友達と一緒にイメージを共有しながら遊びを進める。 	◆壁面「なかよしハウスをつくろう！」 ☆「すてきなうち」  	・興味や関心を持って、楽しく活動に取り組めるように、材料の準備や見本の提示をしていく。 ・友達や動物、家族などがイメージできるように、絵本や図鑑など準備しておく。 ・子ども達の工夫しているところや頑張っている姿を認め、誉めることで楽しい気持ちで作る喜びが味わえるようにする。
13	7月1日 (水)	友達と一緒にイメージを共有しながら遊びを進める。	◆壁面「なかよしハウスであそぼう！」 	・遊びの続きが楽しめるように、必要な物を子ども達と話し合いながら一緒に準備できるようにする。 ・友達の作った物や、子どもたちの工夫したことを認め、伝えることで、さらに遊びが発展していけるようにする。

## 2 活動の概要

### (1) 「グループの友達となかよくなるう！」

#### 【第1時～第3時】

◆幼児の姿 ☆絵本 ♪歌, 手遊び	♥教師の援助
☆絵本「はじめまして」を見て、教師や友達と自分の思いを伝えたりしながら、楽しく過ごす。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">             ♪歌, 「はじめまして」              ♪はじめましてのごあいさつ てるやめぐみともうします。              おきなわそばがだいすきです。どうぞこれからよろしくね♪           </div> ◆自分の好きなものを発表しよう。	♥絵本を読んだ後、子ども達の中から、「私もピアノが好き」「沖縄そば大好き」など、様々な反応が返ってきた。その思いを受け止めながら、「〇〇さんも同じものが好きなんだって」と共通の話題を見つけていけるようにする。 ♥グループの友達と好きな食べ物は何か？と会話が楽しめるようにする。

◆幼児の姿 ☆絵本 ♪歌, 手遊び	♥教師の援助
<p>♪「でこやまでこちゃん」の手遊びをしながら、自分の顔触ったり、お友達の顔を触ったりする。</p> <p>☆絵本「かお」みる。</p> <p>◆友達の顔を描いてみよう。</p> <p>・「おんなのこのかお、むずかしいな！」</p> <p>S子：「T男の顔，うしろにもかいたよ！せんせいどっちがいいとおもう？」</p> <p>教師：「T君の顔を前と後にも描いてくれたんだ，それなら，T君に選んでもらおうよ」とS子にT男に選んでもらうように伝える。</p> <p>S子：「どっちがいい？」</p> <p>T男：「・・・笑っている顔にする」と照れた様子のT男。二人の顔には笑顔が見られた。</p> <p>・生活グループの友達の顔を意識してみたり，会話を楽しみながらお友達の顔を描く子もいれば中には，「お母さんの顔しか描いたことがないから描けない」と伝えてくる子もいた。</p> <p>◆グループ名を利用して，野菜のバスケットゲームをしよう。</p> <p>・自分のグループに分かれて並んでみよう。</p> <p>・ゲームのルールを確認する。</p> <p>・ゲーム終了後も「野菜のバスケット」と友達と声をそろえて言うこと楽しむ姿や，「また続きがしたいな」と伝える子も多かった。</p> <div data-bbox="145 1391 783 1632"> <p>写真</p> </div> <p>・ゲームに参加することができるか気になっていた男の子達（K男，Y男，H男）も，ふざけることもなく，ルールを守りながら，楽しくゲームに参加することができた。女の子達は積極的に声を出して楽しむことができていた。</p>	<p>♥友達とのかかわりが持てるように，手遊びをしながら，友達の顔をよく見たり，触ったりしながら楽しい雰囲気作りをしていく。</p> <p>♥絵本「かお」をみることで，顔の表情の変化に気付けるようにし，「友達の顔ってどんな顔？」「笑ってる顔？丸い顔，それとも長い顔？」子ども達に問いかけていきながら，同じグループのお友達に関心もてるようにしていく。</p> <p>♥絵を描くことが苦手な子もいるので，楽しく取り組めるように，その子の気持ちに寄り添いながら，援助していく。</p> <p>♥描いた絵を見せ合い，工夫したことや難しかったことなどを聞いたり話したりしながら友達とのかかわりが持てるようにする。</p> <div data-bbox="804 880 1449 1055"> </div> <p>♥自分のグループの野菜の名前を確認し，ゲームに使う野菜のバッジに色ぬりをしていく。</p> <p>♥ゲームの約束を子ども達に知らせていきながら，学級の友達と一緒に過ごす楽しさが味わえるようにする。</p> <p>♥グループの友達と一緒に動いたりしながら，楽しくゲームに取り組めるようにする。</p> <p>♥恥ずかしがる子や，大きな声で野菜の名前が言えない子もいるので，側で励ましていくことで安心してゲームに参加できるようにする。</p> <p>♥ゲームが終わった後も，グループの友達と一緒に片付けができるようにしていきながら，次の活動の準備をし，みんなで最後まで協力できるようにする。</p> <div data-bbox="810 1720 1449 1962"> <p>写真</p> </div>

(2)「なかよしハウスをつくろう」

【第4時～第5時】

幼児の姿	教師の援助
<p>☆絵本「くすのきだんちは10かいだて」を見る。 教師：「先生の家付近には、大きなガジュマルの木があるよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おれの家はアパートだよ」</li> <li>・「ホテルみたいな、温泉のあるところにとまったことがあるよ」</li> <li>・「H男の家にあそびにいったことがあるよ」など話が盛りあがる。</li> </ul> <p>◆グループのお友達となかよしハウスを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱積み木の使い方、約束をみんなで確認する。</li> <li>・グループでつくった家に名前をつけよう。</li> <li>・どんな家を作るかグループで相談しよう！</li> </ul> <div data-bbox="140 929 759 1249" style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> <p>写真</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> <p>どんないえにする？</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんせい、トンネルみたいに作りたいのに、だめって…」</li> <li>・「ここ、お風呂みたいだね」</li> <li>・「名前決めたよ！キティーハウスにした！」など様々な子ども達のやり取りが見られる。</li> </ul> <p>Y男：「ここで牛乳が飲みたいな！」 教師：「いい考えだね！みんなにも作った家でおやつ時間にしないかきいてみようか！」 Y男「みんなに聞いてくるね！」と嬉しそうにグループに戻っていくY男。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Y男から話を聞いたグループの女の子達が、自分達で作った家でおやつを食べることを喜び、歓声をあげていた。Y男の気持ちをグループの友達と共感することができ、Y男も嬉しそうにしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥手遊びをし、楽しい気持ちで集まれるようにしながら、話を聞くときの約束を確認していく。</li> <li>♥絵本を読んだ後、「みんなはどんな家に住んでいるの？」など家へのイメージが持てるようにする。また、子ども達に共通のイメージが持てるように気付かせたり、質問したりして話し合うことができるようにする。</li> <li>♥子ども達から出てきた言葉を受け止め、認めていきながら、活動に取り組めるようにする。</li> <li>♥箱積み木の使い方を子ども達と確認しながら、楽しく家づくりができるようにする。</li> <li>♥意見のぶつかり合いもみられるので、友達に自分の気持ちが伝えられるように話し合い、気付かせていきながら、どうしたらいいのか考えることができるようにする。</li> <li>♥出来上がったグループの子ども達と家の名前を考えながら、「この家で何がしたい？」など訪ねたりすることで、遊びの見通しが持てるようにしていく。</li> <li>♥子ども達の思いを受け止めながら、グループの友達と作ったなかよしハウスで楽しく過ごせるようにしていく。</li> <li>♥完成したなかよしハウスの名前を紹介しながら、グループの友達とみんなで協力してできた喜びを味わえるようにしていく。</li> </ul> <div data-bbox="951 1576 1366 1653" style="text-align: center; margin: 20px 0;"> <p>できたよ！キティーハウス！！</p> </div> <div data-bbox="815 1666 1437 1989" style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> <p>写真</p> </div>

- ・ソシオメトリック・テストでは、「友達いないのに・・・」と友達の名前が一人も言えなかったY男がグループの友達と一緒に大きな声で、「1組さん、今日のおやつはグループで作った家で食べます。当番さん準備してください！」と他の友達に伝える姿も見られた。
- ・「なんだかたのしいね！！」
- ・「おもしろかった！明日も家を作ってみんなとお弁当が食べたいな」など楽しい気持ちを教師に伝え、友達と一緒に過ごす心地よさを味わい満足そうにしていた。

なかよしハウスで飲む牛乳おいしいな

写真

・K男とH男の二人は、グループの友達と家を作る取り組みができずにいた。K男の様子を見ると、他のグループの作っている家に興味を持ち、「おじゃまします」「まだ完成していないからだめ」「おーここが入り口か？」と他のグループの友達と会話を楽しんだりする姿がみられる。しばらくの間、他のグループの友達の家で過ごした後、自分のグループに戻り家の名前を決めることから参加していたが、他のグループのことが気になるのか行ったり来たりを繰り返していた。K男のグループだけが最後まで家の名前が決められず、おやつ時間ぎりぎりまで話し合い、ようやく互いに納得して名前を決めることができた。K男は自分の仲の良い友達とのかかわりは見られるが、学級でのみんなと一緒に行動することや、話し合いの場やみんなで協力する活動への参加が難しいときがあり、配慮を必要とする。

また、H男は自分のやりたい遊びから離れられず、ままごとコーナーで過ごしている。そこで、同じグループの男の子に声をかけてもらうことで、一緒にグループに戻り、家づくりに参加することができた。

### 【第6時～8時】

幼児の姿	教師の援助
<p>☆絵本「100かいだてのいえ」を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「白い家に住んでみたい、1階建の家、100階建ての家がいいな、プールのある家、マンションに住んでみたい」など子ども達からたくさんの意見がでてきた。先日のなかよしハウスの続きがしたいという子ども達の思いから、アイデアがいっぱいの子が見られる。</li> <li>・「おれたちは少し暗い家を作るよ」「お化けやしきみたいにしてよう！」と意欲的に友達とかかわる子も増えてきた。</li> <li>・段ボールを屋根に見立てて、箱積み木の上に貼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥「前回グループでつくった家の写真を絵本にして紹介していきながら、子ども達に感想を聞いていく。</li> <li>♥前日の家づくりの続きが楽しめるように、家をつくる段ボールや新聞紙などの材料や教材教具を準備しておく。</li> <li>♥子ども達の言葉に耳を傾けながら、アイデアを認め、子ども達の思いを遊びに活かせるよう教師も一緒になかよしハウス作りにかかわっていく。</li> </ul>

ったり、友達と役割分担しながら協力して家づくりをしているグループもある。

写真

どうぞ!はいれますよ!

・しばらくすると「先生! A男が泣いているよ!」という子ども達に連れられ、A男のそばに行き話を聞いてみると、

A男:「K男が入るなって・・・」

教師:「なぜ、家のなかに入っちゃダメなのかK男に聞いたの?」

A男:「聞いてない、だめって・・・」すると、A男とのやり取りを聞いていたK男がやってきた。

K男:「なんで! 名前かかないとだめさ、だから、名前かいて! それボタンになるから。」

教師:「K男さんは、名前を書くを入れる家を作ったの? 楽しそうな家だね。すごいな・・・」

K男:「だから、おれは字が書けないからA男の名前かいてあげて先生!」

教師:「わかった! まかせて!」段ボールの屋根にA男の名前を書いてあげると

K男:「A男、ボタン押していいよ」すると、二人で自分の名前を押して家の中にはいり、「よかったな、は入れて!」と二人の顔に笑顔がみられた。

・その様子を見ていた、他の子どもたちも自分の家の入口に「先生の名前もあるから入れます。」「家にはいりたい人は名前を書いて名前のボタンを押してください。」など、友達を意識しながら遊ぶ姿が出てきた。「ここはお風呂場にしない?」「テレビも作ろう」と自分の考えを伝えながら、なかよしハウスで楽しく遊ぶ姿が見られた。

写真

♥作っていく途中で、上手にできる部分と壊れてしまう場所が出てきたので、他のグループの子ども達とも相談しながら家づくりができるようにする。

写真

♥子ども達の思いに耳を傾けていきながら、作りたいことが実現できるように、材料を子ども達と考えたり、探したりしながら家づくり必要なものを考えたり、気付いたりすることができるようにする。

♥トラブルが起きたときは、子ども達の気持ちを受け止めながら、相手の気持ちも聞いたり自分の考えを伝えたりしながら、友達関係が気付けるようにしていく。

♥子ども達から出てきた言葉やアイデアを他の子ども達に知らせることで、新たな遊びへ広げていきたい。

写真

なまえのぼたん  
おしてね!

【第9時～11時】

<p style="text-align: center;"><b>幼児の姿</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>教師の援助</b></p>
<p>☆絵本「かしのきホテル」の読み聞かせの後、子ども達の中から、「こんな木があればいいのに」という言葉が聞こえてきた。「なかよしハウスのそばに、大きな木を作ればいいんじゃない？」というS男の一言から、みんなで「なかよしの木」を作ることになった。</p> <p>◆なかよしの木を作ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の具で色を塗って木を作ろう。</li> <li>・葉っぱを作ろう。</li> </ul> <div data-bbox="146 730 410 1014" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>写真</p> </div> <div data-bbox="432 678 780 1014" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>写真</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>はっぱにかおを かいちゃおう</p> </div> </div> <p>・おやつの後、完成したなかよしの木のそばで、大好きなカバマダラの幼虫に夢中の男の子達。この木の下をカバマダラの家にしようと集まり、虫の家を牛乳パックで作っている。「逃げそうだね」「ドアを作らないとだめだな、息ができないかもしれないよ」など友達と相談していた。</p> <div data-bbox="146 1364 705 1673" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>写真</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>エサも たりない かも！</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登園し、朝の支度が済むと同時に友達となかよしハウスで過ごしている子の姿が多く見られる。</li> <li>・ままごとコーナーから、ままごと道具やテーブルを運びだし、なかよしハウスで使う物を友達と会話を楽しみながら遊ぶ姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥座り方、話の聞き方を子ども達と確認し、絵本「かしのきホテル」の絵本を読み聞かせをする。</li> <li>♥「こんな木があつたらいいな」という子ども達の思いとS男の考えを受け止めていきながら、なかよしの木をどうやって作るかをみんなで話し合い、相談していく。</li> <li>♥なかよしの木を作る材料について知らせながら、絵の具の使い方を確認していく。</li> <li>♥絵本「かしの木ホテル」の絵を見せることで子ども達一人一人がイメージした木の色やまた、自分の作りたい木の色を画用紙に塗っていけるようにする。</li> <li>♥活動に取り組むのに時間のかかる子もいるので教師がそばについて安心した気持ちで、作ったりかいたり出来るようにする。</li> <li>♥一人一人の作品を認めて褒めていきながら、壁面に飾っていけるようにする。</li> <li>♥カバマダラのお父さんお母さんになりたいという子ども達の気持ちに共感していきながら、牛乳パック、空き箱などを用意する。</li> <li>♥なかよしハウスに虫のコーナーを作り、昆虫図鑑なども準備し、興味関心を持って観察できるようにする。また、幼虫からさなぎに変身した姿をみせることで、優しく大事に扱うように伝え、命の大切さも知らせていく。</li> <li>♥子ども達との会話を教師も一緒に楽しみ、共感していく中で、遊びに必要なものを考えたり気付かせたりしながら、なかよしハウスで過ごせるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="805 1695 1457 2016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>写真</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>おいしいごはん つくってますよ たのしいな！</p> </div> </div>

幼児の姿	教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここは工事中です」と積み木を使って大工さんごっこを始める子も出てきた。</li> </ul> <p>教師：「くすのきだんちのかえるさんの家も工事していたね」と話すと、</p> <p>M男：「おれたちのはカバマダラの幼虫の家だよ」と答えている。</p> <p>K男：「おお！M男，幼虫の家を作ってくれてありがとう！」と答えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カバマダラの幼虫の家作りを見て，他の子ども達も遊びを取り入れ，友達とかかわりながら遊ぶ様子が見られる。</li> <li>・壊れてしまった段ボールの壁の代わりに，「新聞紙をカーテンにしよう」と友達を誘って作り，徐々に，自分達で遊びを進める様子が見られるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥子ども達のアイデアを認めたり，褒めたりしながら，全体にも伝えていく。</li> <li>♥遊んだ後の片付けがおろそかになりがちなので，最後まで頑張って片付けをしている子ども達を話し合いに中で褒めていきながら，自分達で気付いていけるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="821 555 1453 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真</p> </div>
<p>写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙で作ったカーテンの後ろで，手作りのチョウチョのペープサートを動かして遊ぶ子ども達も出てきて「先生，チョウチョがとんでくるからみてて」と伝える子や「靴はここに並べてください！」とビニールテープで靴を並べるコーナーを作ったり，「カレンダーも作ろう」「時計もあると便利！」など，遊びに必要なものを友達と楽しみながら作る姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥なかよしハウスでカバマダラの幼虫の世話をする姿が見られるので，幼虫の扱い方を子ども達と確認し生き物への優しい気持ちが持てるようにしたい。</li> <li>♥友達とあまりかかわりが持てない子には，教師と一緒に遊びの中に加わりながら，出来ることや，やりたいことなどを見つけられるようにする。また，遊びに参加できるようにしたり，友達と会話を楽しめるようにしたりしていく。</li> <li>♥子ども達の気付きや工夫していることに，共感し，認めていくことで自信につなげていきたい。</li> <li>♥なかよしハウスで，困ったことや楽しかったことなどについて，帰りの会で伝えることで，明日への見通しを持って遊べるようにする。</li> </ul>

平成 21 年度 6 月 30 日 (火)

沖縄市立比屋根幼稚園 1 組

男児 12 名 女児 12 名 合計 24 名

保育者 照屋 めぐみ

(1) 活動名 壁面「なかよしハウスをつくろう」

## (2) 活動設定の理由

### ① 教材観

幼児は毎日の生活の中で、身近な環境とかかわり様々な体験を繰り返す中で、感じることを、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ねていく。その時の表現の表れを教師が受け止め、認めることやその気持ちを友達や教師と共有し、表現し合うことで感性と表現する力を養っていくことができる。

そこで、絵本からイメージを広げながら、友達と一緒に積み木や段ボールを使って協力して、なかよしハウス作りの活動に取り組み、さらに壁面「なかよしハウスをつくろう」においては、子ども達のイメージを受け止め、友達と一緒に作る楽しさや面白さを経験することで、思いや考えを表現することができるであろうと考える。

### ② 幼児観

幼稚園という新しい集団生活のなかで、今のこの時期は、友達と遊ぶ楽しさや面白さを味わうことや、基本的な生活習慣を身につける大事な時期である。しかし、子ども達は朝の会、帰りの会の活動や学級での話し合いの場において、教室の中を歩き回ったりする子、相手の話を聞く態度が育っておらず、話を聞く場においても自分の意見ばかりを主張する子、いたずらやおしゃべり、トラブルも多くみられる。幼児の実態調査からも、友達関係に偏りもみられ、友達とのかかわりが弱いことがわかった。

そこで、子ども達一人一人のよさ受け止め、認めていきながら信頼感を築き、子ども達が安心して自分の思いや考えを伝えることができるような友達や教師とのかかわりが必要だと考える。

### ③ 指導観

絵本からイメージを広げる活動を通して、自分の思ったことや考えたことを話したり、作ったりする中で、友達や教師と一緒に過ごす心地よさや楽しさを味わえるようにしていきたい。

また、子ども達の気持ちに寄り添い、受け止め、工夫している姿を認めていく中で、自分なりのイメージを持って活動に取り組めるようにし、思いや考えを表現できるような言葉かけや援助の工夫をしていきたい。

(3) 活動の展開

指 導 案		平成 21 年 6 月 30 日 (火)
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達となかよしハウスで、カバマダラの幼虫を観察する子や、牛乳パックでカバマダラの幼虫の家を工夫して作る姿が見られる。</li> <li>・「絵本のような木をつくりたい」「庭もあるといいね!」と子ども達なりにイメージを膨らませ、木に葉っぱを付けたりしながら、なかよしハウス作りに喜んで取り組む姿がみられた。</li> <li>・「冷蔵庫とか、ソファーとかも必要だね」と遊びに必要なものを友達と話し合う姿も見られる。</li> </ul>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と楽しみながら、工夫してなかよしハウスを作る。</li> </ul>	内 容
活動仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒になかよしハウス作りをすることにおいて、絵本や見本、材料を提示することにより、一人一人がイメージをもって製作遊びに楽しく参加することができるであろう。</li> </ul>	
時間	○予想される幼児の活動	☆教師の援助    ◇環境構成
8:45	○指遊び「あさがおこりゃこりゃ」リズム「えびかにつくす」に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆指遊びやリズムに合わせて踊ることで、身体を動かす気持ちよさを味わえるようにする。</li> <li>☆落ち着いた雰囲気では絵本をみることができるようにし、次の活動へのイメージが持てるようにする。</li> </ul>
9:00	○絵本「すてきなうち」の読み聞かせを聞く。	☆今日の活動について期待をもって話しが聞けるようにする。
9:10	○今日の活動について確認する。	◇教材や材料の準備をしておく（セロハンテープ、折り紙、色画用紙等）
	○グループに分かれてなかよしハウスの製作遊びをする。	☆教師と一緒に活動に使う教材や材料などを子ども達と確認し見通しを持って準備できるようにする。再度、はさみの使い方を確認していく。
	○なかよしハウス作りに使う材料を選び、のり、ハサミ、マーカー、クレヨンを準備する。	◇子ども達がイメージしやすいように、これまで読んできた絵本や見本を準備しておき、見たり触ったりしながら作ることができるようにする。
		☆楽しみながら作れるように、工夫している姿を認め、はげましていく。また、できた作品を紹介したり褒めたりしていくことで他の子への刺激としていく。
		☆製作が苦手な子もいるので、楽しく作れるように援助しながら作る喜びを味わえるようにする。
		☆出来た作品を飾りながら、子ども達が共通の喜びを感じられるようにしていく。
		◇片付けがスムーズに行えるように、箱を準備しておく。
10:00	○片付けをする。	☆まだ出来上がっていない子に対しては、片付けを促しながら明日も続きができることを伝えていく。
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら製作遊びに取り組み、友達と作る喜びを味わうことができたか。</li> </ul>	

# 公開検証保育の様子

今日の活動を確認する

写真

手遊びをしながら、楽しく集まれるようにする。

写真

絵本「すてきなうち」から家へのイメージが広がるようにしていく。

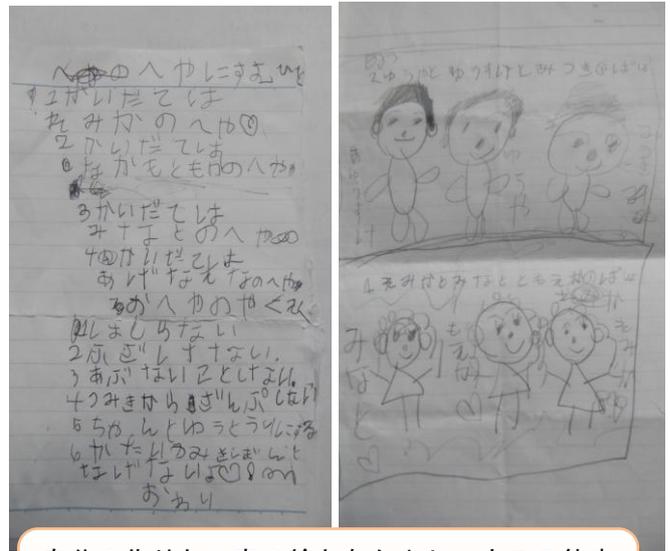
写真

見本を提示することで、作りたい気持ちを持てるようにする

なかよしハウスを作ろう

写真

「どれにしようかな？」  
材料選びの様子。



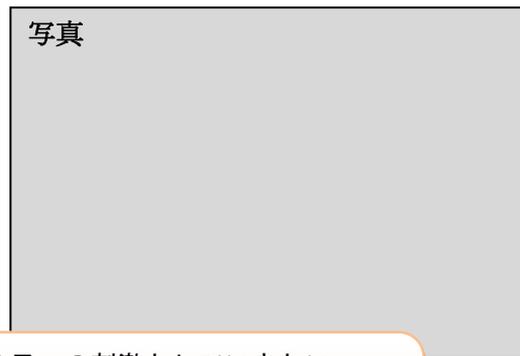
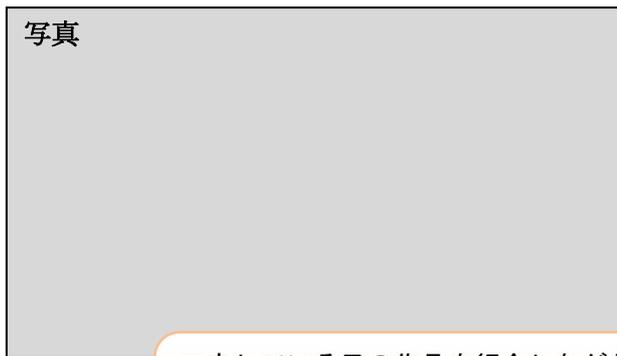
自分の作りたい家の絵となかよしハウスの約束も考えてきてくれたR子。

写真

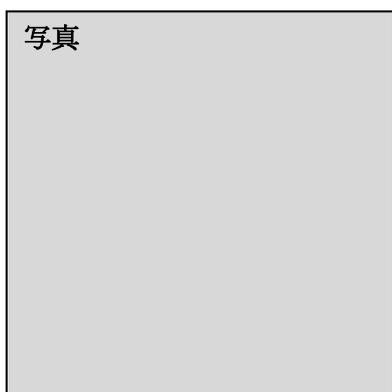
写真

写真

真剣な表情の子ども達。前日の小物箱づくりの経験から、自分達で作り方を思いだし、材料を受け取るとすぐになかよしハウスに使う箱作りに取り掛かっていた。



工夫している子の作品を紹介しながら、他の子への刺激としていきたい。紹介された子も認められたことで嬉しそうな表情をみせ、意欲的に取り組む姿がみられた。



子どもたちの考えやアイデアに共感し、認めていくことで活動の意欲が持てるようにし、楽しく取り組めるようにする。

友達同士で話し合ったり、同じ材料を使ったりしながら、友達とのかかわりを楽しむ姿がみられた。

#### 4 公開検証保育の考察

##### 活動仮説

・友達と一緒になかよしハウスを作ることに  
いて、絵本や見本、材料を提示することにより、  
一人一人がイメージを持って製作遊びに楽し  
く参加することができるであろう。

##### (1) 検証保育の経過

- ・朝の体操や手遊びに参加しながら、今日の活動に期待を持って集まることができる子もいる半面、カバマダラの幼虫の世話が気になって集まりの輪に入れない子もいた。
- ・話し合いの時にカバマダラの羽化について触

れたため、話を聞く時間が長くなってしまい子ども達の集中力が途切れてしまった。

- ・これまで取り組んできたなかよしハウスの遊びから、今日の活動に対して、友達と一緒に住みたい家をイメージした絵を描いてもってくる子もいた。
- ・話を聞くときの約束が守れず、立ちあがって前に出てきて自分の思いを伝えようとする子ども達への対応がうまくできなかった。
- ・自分達のグループでテーブルやイス、必要なハサミやのりなどを子ども達なりに考えて準備する姿が見られた。
- ・友達と材料を選んだり、分け合ったりしながら製作活動を進める様子が見られた。

- ・家の中にあるものをイメージして、テーブルとイスを作る子や、見本からカニと同じ水の中をイメージして作る子もいた。
- ・「なかよしハウスを作ろう」という活動のイメージを持って製作に取りかかれる子もいたが、どんな家を作るかをイメージ出来ずにいる子もいた。
- ・頭の中では作りたいことがイメージ出来ていても、思うようにうまく作れなくて製作の手が止まってしまう子もいた。
- ・片付けに時間がかかってしまい、使ったものをそのままにして他の遊びをしてしまう子もいた。
- ・最後まで仕上げることができなかつた子も多かったので、今日の活動を振り返りながら次の活動の見通しが持てるようにした。

## (2) 授業研究会から

- ・グループの友達と活動のねらいを達成できるような目的意識をもたせることや取り組み方の工夫が必要なのではないか。
- ・なかよしハウスを作るときの見本を提示するだけでなく、教師が子ども達にもっとイメージを湧かせる手立てが必要だったのではないか。
- ・幼児の作りたい気持ちを友達の前で紹介していくことで、本人も認められる充実感を味わうことができると思う。それが他の幼児への刺激になるのではないか。
- ・グループで一緒に過ごすということで、友達とのかかわりがみられ、作る材料を同じグループの子に配ったり、素材の感触を友達に伝え合ったりする場面もみられた。
- ・子ども達に作品を紹介するときの配慮として、教師がその子の作品を褒めるだけでなく、作った本人にその思いや、工夫したところを言葉で表現していけるようにするのが望ましい。また、出来上がった作品の感想を発表する場を設定することで、友達とのかかわりを持たすことができた。また違った形の時間をみんなと共有することができたのではないか。
- ・研究テーマに迫っていくために、一つの絵本から検証に向かうこともできたのではないか。
- ・絵本から感じたことを、学級の子ども達に具体的にイメージの共有することが大切である。
- ・友達と一緒に活動に参加しにくい子への配慮をしていきながら、その子ども達一人一人の思いを共同的な場の中で活かせるようにすること。
- ・今日の活動を次へとつなげていくことで、みんなで作ったこと、できた喜びを共有することができるようにする。思いや気持ちを言葉で表現できるようにすること。

## (3) 活動のまとめ

本時の活動の中で、提示した見本から水の中をイメージして作り始めた子や自分が世話をしているチョウの幼虫の家を作る子、また、友達と材料を持ち寄り相談する子など、イメージを持ってなかよしハウスを作る子ども達の様子が見られた。その半面、材料の前で悩んだり、考えたりする子、材料を手にしながらも思うように作れない子、作りはじめるまでに時間がかかってしまう子などの姿が見られた。このように、子ども達の製作への取り組み方は様々だった。一人一人の幼児の実態に応じた援助の仕方や子どもたちの心を揺さぶり、子ども達の思いや考えを表現させていくことの難しさを痛感した。

また、友達と楽しみながら一緒に作るという活動を設定したが、自分の作品を作ることに精一杯の状況から、友達とのかかわりを持たせることができなかった。今後、グループで意識的に目的を持って遊びのイメージを共有して取り組めるような活動や、作った作品を紹介する場の工夫が必要である。

## VIII 研究の結果と考察

本研究テーマを「思いや考えをいきいきと表現できる援助の工夫 ～絵本からイメージを広げる遊びを通して～」と設定し、基本仮説を「絵本からイメージを広げる遊びを通して、幼児の思いに共感し、環境の構成や一人一人に応じた援助の工夫をすることによって、思いや考えを

いきいきと表現し、友達と楽しく遊ぶことができるであろう。」とし、研究を進めてきた。

さらに基本仮説を、研究内容において、理論研究、指導計画、保育実践のそれぞれの具体仮説を立てて取り組んできた。そこで、その3つの具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

## 1 具体仮説1の検証

領域「表現」の意義、絵本の教育的効果について理論研究をすることにより、教師の援助のあり方が明確になるであろう。

幼稚園教育要領の領域「表現」の意義について要点を捉えていくことで、子どもの育ちは「表現」と他の領域と相互的に関わって成り立っていることがわかった。特に「人間関係」とのかかわりについては表裏一体といわれるほど密接であることを理解しながら、表現のねらいを再確認することで、幼児理解に努めていくことができた。

絵本の教育的効果を踏まえながら、幼児の遊びと絵本の内容とをあわせた絵本の読み聞かせをすることで、次への活動のイメージを持つことができ、「10階だての家が作りたい」「滑り台のあるいえがいいな」など活動の見通しを持つことができた。

グループの友達とかかわりながらイメージを共有していくために、考えたことを教師や友達に伝え、話し合う場を設けていきながら、実際に友達との家づくりに挑戦していくことで、友達と協力することや同じ空間を楽しむことができた。そうすることで、「もっと一緒に遊びたいな、明日もやりたい」という気持ちを維持することができた。「段ボールとか、ガムテープも必要だね」と家づくりに必要なもの気付く子や、テレビや時計やカレンダーを作りたいと遊びに必要なものをイメージする子、なかよしハウスでの過ごし方はどの子も様々であるが、一人一

人のその気付きに共感していきながら、子ども達の表現する過程を大事に受けとめていきながら、遊びに必要なものを準備し、援助していくことで楽しくなかよしハウス作りに取り組むことができた。

## 2 具体仮説2の検証

幼児の実態を調査、分析をし、年間指導計画を作成することにより、見通しを持って保育実践できるであろう。

幼児の家庭での過ごし方や遊びの様子などの実態を捉えるために保護者へアンケート調査を行った。アンケートの結果から、幼児の家庭での過ごし方と幼稚園での友達とのかかわり方を合わせて分析をしていくことができた。

2回目のアンケートから前回よりも幼稚園のことを話す子が増え、友達との関係も増えていることが分かった。また、「忙しくてなかなか絵本を読む時間が作れない」「赤ちゃんがいてあまり絵本が読めない」という保護者の様子も見られ、幼稚園における幼児と絵本とのかかわらせ方や読みきかせの必要性について再確認することができた。また、子ども達へのソシオメトリック・テストを実施し、学級内の仲間関係や幼児の友達や幼稚園への思いを聞くことができた。これまで教師が主観的に観察し、かかわりだけでは把握することができなかった幼児の内面からの実態を捉えることができた。テストの結果から、個に応じた援助や友達とのかかわりを持たせる活動ができ、一人一人の実態に即した援助を心がけていくことができた。

学級の中で気になる存在のK男は、教室から抜け出し、絵本のコーナーや他のクラスをのぞいて過ごしている。時には友達を誘い教室から一緒に抜け出してホールで走り回る姿が見られた。このようなK男の気持ちに寄り添い、共感し自分で考えて学級に戻れるように支援してきた。さらに、みんなで取り組む活動やグループ

での活動に意識的に参加させることで、友達とカバマダラの幼虫の家づくりをして遊ぶことから、友達とのかかわりを持つことができるようになってきた。

これまで「幼稚園に友達はいない」とつぶやいていたY男。グループで友達となかよしハウスを作って遊ぶかかわりを通して、自分の考えたことや気持ちを教師や友達に伝える場面が増えてきた。その中で友達に認められ自信を持って行動する姿が見られるようになってきた。ソシオメトリック・テストでは一回目は一人も友達の名前をあげられなかったのにもかかわらず二回目のときには、好きな友達の名前を10名も挙げるようになってきた。

実態調査やソシオメトリック・テストの結果を踏まえ、幼児の発達過程を捉えることで、友達とかかわる力を育てる年間指導計画を作成し、本研究における目指す幼児像に近づくことができるように、見通しをもって活動を展開することができた。

### 3 保育実践の具体仮説の検証

絵本を通して、友達とかかわり合いながら遊びに取り組むことにより、楽しさや、面白さを味わい、思いや考えをいきいきと表現することができるであろう。

絵本を通して、友達と遊びのイメージを共有した遊びの展開ができる活動として「なかよしハウスを作ろう」を設定し、友達や教師とかかわりながら取り組んでいった。グループの友達とのかかわりを深めていくために、グループの友達と箱積み木を使った家づくりをしたり、協力したり、一緒におやつを頂く場を設けることで、同じ時間と空間を共有し、徐々に仲間意識が広がっていった。

絵本を見て「こんな家に住みたいな」「こんな木があったらいいな」という子ども達の言葉から活動が広がり、小さな家から大きな家へと変

わっていった。その中で、遊びに必要なものを運んできたり作ったりしながら、友達とのかかわる姿も多くなっていった。また、カバマダラの幼虫に夢中になっていた男の子も「この木の下を家にしたい」となかよしハウスの中で幼虫の世話をする姿や「工事中です！気をつけて下さい」「カーテンを作ろう、2組さんに見られるよ」など、友達とかかわりながら一人一人がその空間を楽しみ過ごすことができた。時には友達の作ったものを壊してしまいトラブルになることもあったが、みんなで協力して直す様子も見られた。

また、自分で作ったなかよしハウスを友達の家とつなげて壁面に飾っていく活動の中で、「果物屋さんもあると楽しいかも！」「おれたちはロボット屋さん作るよ」「動物園もつくろう！」と遊びを広げていくことができた。完成したなかよしハウスを誕生会で紹介しようということになり、子ども達とどんなことを他のクラスの友達に伝えていきたいかを話し合い、発表していった。「僕も本当は発表したかったのに」と泣き出す男の子も出てきたので、再度、学級で話し合いの場を設けることで、思いを伝えたり聞いたりすることができた。

活動の検証前と後に行ったソシオメトリック・テストの結果からみても、検証前に友達の数を限定せずに選んでもらった時には、友達の名前をあげられなかった男の子が3人いたが、検証後の結果を見ると友達とのかかわりが広がり、相互関係も見られるようになってきた。その他のかかわりの弱かった子も友達とのかかわりが増え、前回学級全体で選択された人数は72人であったが、検証後には157人に増加していた。また、相互関係を見ても、検証前の31人から71人に増えていた。



- 力が豊かになる有効な手立てとなることを認識することができた。
- ・保護者へのアンケート調査を行ったことで、幼児の家庭での様子や降園後の過ごし方を知ることができた。
  - ・ソシオメトリック・テストを実施，活用したことで，学級内での友達関係を把握し友達とのかかわりやグループでの活動の展開につなぐ援助ができた。
  - ・年間指導計画を作成することで，絵本の選定をし，活動の見通しを持って取り組むことができた。
  - ・遊びを通して友達とのかかわりが増え，これまであまり意識していなかったグループの友達を誘ったり，食事のときの会話を楽しんだり，互いのよさに気付き教え合ったりする姿も見られるようになってきた。

- ・遊びの中で，友達に認められることや共感し合うことで自信につながり，遊びをさらに楽しく展開することができ，友達と一緒に過ごす楽しさを味わうことができた。

## 2 今後の課題

- ・幼児の実態に応じた活動内容と援助のあり方について再検討し，年間計画に基づいた実践及び表現する活動の展開。
- ・幼児の発達過程を捉えていきながら，活動が充実できる時間の確保をしていく。
- ・思いや考えを，言葉で伝え合うことができる場の充実と援助のあり方。

### <主な参考文献・引用文献>

- ・文部科学省 平成20年度10月「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
- ・武藤隆・柴崎正行編 2009 別冊[発達] 新幼稚園教育要領・新保育指針のすべて ミネルヴァ書房
- ・黒川健一 2006 保育内容「表現」 ミネルヴァ書房
- ・武藤隆・民秋言 2008 ノッコセレクト ここが変わった NEW幼稚園教育要領・保育所保育指針ガイドブック
- ・森久保仙太郎 1992 絵本の世界 偕成社
- ・代田知子 2003 読み聞かせわくわくハンドブック～家庭から学校まで～ 一声社